

伊豆大島弾丸ボランティア

11月16日22時発夜行大型船で出発

11月17日6:00伊豆大島到着

8:30ボランティアセンター受付

12:00午前の部終了

14:30大型船で帰宅



ボランティアセンターを通して、ボランティアを行いました。
8:30に受付をし、マッチングという誰がどこのお宅に伺うかを決め、オリエンテーリングの後、ボランティア先に移動します。



今回は、災害後一ヶ月ということもあり、川島町長と議長が挨拶に来られました。

私たちは、自然と社会と文化経験者など有志5人で参加し、2人の親子と7人でチームとなり、あるお宅の庭の土砂撤去作業を行いました。写真が順にみていただくと、庭の土手が作業により無くなったのがわかると思います。雨が降りあまり時間が経っていないので、土砂が重いものの、スコップで思いっきりいれると崩れます。土埃も軽度で済んだようです。土砂は、土や火山灰だけでなく、木ぎれがれきなどを含んでおり、中々スコップが入らなかったりと、いずれも重労働でした。私自身は、今回初めて「ネコ」をつかったのですが、土砂が山盛りだと一輪走行でなかなか運転も、難しいものだということがわかりました。



庭の土砂でできた土手の除去と、前日も土砂の除去作業を行ったそうなのですが、そこ土砂を積んだ山がそこだと重機が入らないとのことだったので、それを違う場所に運び、庭をきれいにしました。また、木や、がれきの除去も行いました。

隣では、海洋国際高校の高校生20人くらいが、木と木の間の重機が入ることができないところをみんなでスコップで土砂除去していました。腰丈くらいの土砂を掻き出していくと、中から大木が横たわっているのが見えてきました。あきらかにその大木は、その場で倒れたのではなく、流れてきて突き刺さったということが、庭の感じでわかります。大木の姿は見えても除去は難しく、午前中いっぱいかけて、やっと取り除くことができました。男性20人でも運ぶのがやつの大木。

ボランティア終了後、帰宅する道で今回のお宅の場所を確認すると、元町三丁目で、氾濫した大金沢の海に向かって左手のお宅でした。今回のお宅は、庭に大量の土砂が30センチくらいたまっていたものの、お宅は玄関が浸水した程度だったそうです。ただ裏のお宅は、家財道具など全て外に出されていて、窓もなく吹き抜けの状態でした。

テレビで見ているなんとなく想像していたものの、現実はすごかったです。沢でも川でもない場所に3メートルくらいのえぐられた場所が海まで伸びていたり、大木が家屋に突き刺さっていたり、一階がえぐり取られた家があったり。山を見ると緑ではなく、土が露出している場所がたくさんあり、土砂崩れが様々な場所で起こっていたことが分かります。

今回は、弾丸ツアーでしたが、来週もできれば、ボランティアに行きたいと思っています。また弾丸になってしまうかもしれませんが。

ちなみにボランティアは、宿泊が条件になっています。雨が降れば危険なので、中止になります。今回は、天気予報とにらめっこしながら、最後の最後まで予定を慎重に決めました。もちろんボランティア保険にも加入して参加しました。

<http://oshima.vc/volunteer>

